

大東文化大学 キャリア形成プロジェクト 実施概要

大東文化大学 キャリアセンター

細田咲江

大東文化大学では、キャリア教育の学びを実践し拡張するプロジェクト“真ん中に学生がいる・学びがあるプロジェクト DAITO キャリアプロジェクト”通称「キャリプロ」を2022年に始動しました。このプロジェクトは、学部、学年を超えた学生が正課外で集まり、インプットとアウトプットを繰り返しながらキャリア意識を醸成し実践していくプロジェクトです。目的としては、①キャリア教育科目で学んだ基礎を大学生生活のなかで実践しつつ、キャリア意識を高められる機会の提供②キャリア形成に意欲的な学生に対し主体的にかかわる機会の提供③with コロナ時代の新しい「大学の場としての機能」を提供し、大学へのロイヤリティを高めることです。また、最終的な到達目標としては、育成された学生がロールモデルとなり他の学生への波及効果（横への広がり）を生み、さらに、活動経験者がOBOGとして継続参加することで（縦の広がり）ロイヤリティの伝承を行い、卒業しても大学と関わる機会を提供することです。

以下、大東文化大学キャリア形成プロジェクト「キャリプロ」の概要説明をご覧ください。

1. 実施目的

- ① キャリア教育科目で学んだ基礎を大学生生活のなかで実践しつつ、キャリア意識を高められる機会を提供する。（キャリア教育を単なる就職対策ではなく、大学生生活のあらゆるシーンでキャリア意識を醸成する場と捉える）
- ② キャリア形成に意欲的な学生に対し主体的にかかわる機会を提供し、社会人基礎力を醸成する機会を提供する。
- ③ with コロナ時代の新しい「大学の場としての機能」を提供し、学生の大学へのロイヤリティを高める。

2. 実施におけるポイント

- ① プロジェクト活動を通じ、学生が主体的にかかわる機会を提供し社会性を身につけ、それを学生自身が自覚できる活動とする。そのため、インプットばかりでなくアウトプットが伴う活動とする。
- ② 活動定着のための定例ミーティング等における社会人のロールモデルの提示と、学生同士の交流で相互学習可能な機会とし、キャリア形成意欲を喚起し続けられる活動にする。
- ③ 就職対策にとどまらないキャリア形成のための施策として、大学生生活の様々なシーンにおいて年間を通じ複数のプロジェクト活動に学生が分散して携わり、大学全体への広がりを展開する。（横への広がり）
- ④ プロジェクトを経験した学生が、次の世代の学生へのサポートを担うというサイクルを作り、学内で学生を中心に継続した取り組みに育てる（縦の広がり、継続）
- ⑤ 低学年からのキャリア形成機会の提供が目的ではあるが、初年度（2022年度）のみ学年

を限定しない活動とし、新型コロナの影響で対面での学修経験が極端に少なかった(2021年度当時)2年生へのキャリア形成支援としての役割も意識する。

3. プロジェクトの到達目標

- ① プロジェクト型学習、ワークを通じ、自己の意見を相手に伝え、多様な意見を取り入れながらプロジェクトを進めることができる学生を育てる。
- ② 上記活動により育成された学生がロールモデルとなることで、他の学生の意識を刺激するなどの波及効果・底上げ効果形成をねらう。
(「横への広がり」で、プロジェクトに参加していない学生への波及効果を狙う)
- ③ 継続した取り組みにすることで学年を超えた「縦の交流・広がり」を促し、ロイヤリティの伝承ができる学生を育成し、卒業しても大学と関わる機会を提供する。
(OB OG組織への波及)

4. 実施実績 (2022年度)

【前期プログラム (全10回)】

前期は、プロジェクトを成功させるための基礎を学ぶ機会を提供し、また社会人との座談会(コクヨ(株)現採用人事ほか)を設け、その対話から社会と大学の違いを知る機会を提供した。

その学びを実践する場としてミニ PBL(*)を展開し、企業の代表を評価者として迎えて最終プレゼンテーション(第1位~3位発表)を行った。学生は、制作したものが形になる喜び、外部の方に評価していただく体験を得た。

(*)産学連携型 PBL「下車人口が減る下北沢の街の魅力を発信する記事を作成せよ」

第1位グループ 発表テーマ:『思いがけない出会いで 何度も楽しめる下北沢』

【後期プログラム (全8回)】

前期の活動を受けて後期では、「SDGs」「地方創生」「グローバル」「エンタメ」「教育」「スポーツ」の6つのキーワードから興味のあるテーマを各人が選び、興味を持った学生同士がチームを組み活動した。活動テーマは「大東文化学生ならではの力を活かして、周囲に価値を届けるサービスを立案せよ」。

各チームは、まず、このテーマに沿って練り上げたプランのプロトタイプ(試作)を実行し、最終的にはチームで届けたいサービス(どんな価値を誰に届けたいのか)を作り上げ企画書として形にしていった。プロトタイプの実行においては、社会人を巻き込み交渉するチームや、独自で集客を行い、実際にイベント実行まで実現したチームもあり、このプロジェクトの狙いの一つである主体的な行動を起こし、その中からの学びが得られる実践が行われた。

最終回には、起業家を招いてプロジェクトの成果発表を行い、活動へのフィードバックをいただいた。

【学生メンターの育成】

プロジェクトを経験した学生が、次の世代の学生へのサポートを担い、学生同士の学びのサイクルを作るため、2023年3月末を皮切りにメンター研修を開催していく。このプロジェクトは、単年度でやり切るものではなく、正課だけではない大学の“学びの場”を継続して提供していく中で、既存の枠組みにとらわれない学生相互の学び合いのサイクルを作り上げていくものでもある。

5. 成果物（2022年度）

【前期】

- 記事を書き上げた全10チームのうち、4チームの記事が企業HPに掲載

下北沢の魅力を発信する記事コンテンツは、大学生をターゲットにする内容だけではなく、「古着好きの学生へのコンテンツ」「若手社会人の息抜きをするためのコンテンツ」「親世代向けのコンテンツ」など様々なコンテンツが生まれた。

また、記事作成の過程においては「複数回（多いチームは5回以上）下北沢に通う」「お店への取材のアポ取り」「ターゲットへの調査」等、授業外での様々な行動が生まれた。

【後期】

- 全9チームがプロトタイプ(試作)を作成の上、プレゼンテーションまで完遂

後期のテーマは、周囲に価値を届けるサービス創造体験。「エンタメをテーマにイベント企画・実行するチーム」「グローバルをテーマに、留学生向けに習字体験を行うチーム」「SDGs・地方創生をテーマに、インスタグラムを運用し情報発信するチーム」など様々なアウトプットが生まれた。

また、プロトタイプの過程においては、「社会人へのインタビュー」「関係の外部施設への連携協力の依頼」「大学職員の巻き込み」といった、前期以上に枠を超えた行動を起こすチームが生まれた。

最終的には、学年、学部を超えたチームによる活動は、部活やサークルだけではない大学の“場としての役割”の提供となり、縦割り（学年）、横割り（学部）を打破した仲間との密度の濃い活動から生まれた新しい人間関係、連帯が発生したことは、既存の枠組みからの関係性しか持てなかった学生への新しい価値観を提供できた。これは、プロジェクトの主な狙いの一つでもある。

*詳しくは、文末《付録》に掲載のQRコードから

「キャリアプロ」のチラシ、活動レポート、説明会用のYouTube動画をご覧ください

6. 今後の展開

① このプロジェクトの意義として、参加した学生のみならず他の学生への波及効果を生む取り組みとしていくことがある。参加した一部の学生だけへの価値提供ではなく、このプロジェクトを経験した学生が各所（学部・学年の友人関係の中など）で核となり話題にすることで、あるいは彼らの行動が変わることで他の学生に新しい価値観の提供と主体的取り組みの重要性に気付かせるというプラスの影響を与え、「おもしろそうだな、自分もやってみたい」といったマインドを生み他の場所でも行動に移していくという波及効果を期待している。また、こうした手の込んだ取り組みは、サークルにもゼミにも部活にも所属していない居場所のない学生に対しても「新しいことにチャレンジできるかも」という気づきを生み、結果的に大学に対するロイヤリティの醸成につながる可能性がある。さらには、入試広報でこの活動を積極的に活用し、高校生とその保護者および高校教員に対し、ユニークなキャリア教育の取り組みをしている大学として発信し、他の大学との差別化により大学のブランディングに寄与できる可能性がある。近年、高校ではキャリア教育への関心は高く、広報活動によって志願者増へつながる取り組みともなりうる。そのためにも、学内・学外への広報を積極的に行う必要性があり、成果報告で提示している「活動報告書」については、オープンキャンパス等で配布し、高校生等へのPRを行っていききたい。（予定）

② 初年度参加者の中から後輩をサポートするメンターを有志で結成した。このメンバーは、2023年度のプロジェクトにはメンターとして深くコミットし、これにより次の波及効果を生み出していく予定である。

波及効果の1点目は、メンターがお手本的存在として事例を提示する役割を担い、継続的に展開するためにも内製化へ向けた第一歩とすること。波及効果の2点目としては、新しく参加した学生が活躍する先輩学生を目のあたりにすることで、憧れの存在を意識でき大学生活に期待感を持たせることである。さらに、メンターの学生にとっても、自分が学んだことを教えるという行為を通じて新しい学びが得られ、プロジェクトのアドバンス的位置づけとすることである。

《付録》

▶活動の様子（2023年）

全学プロジェクト『DAITOキャリアプロジェクト（通称：キャリプロ）』 2年目！ 始動！！



学生メカ：キャリプロ1年目を経験した心強いメカ



2023/5/9（火）16時45分～『キャリプロ2年目』が始動しました！

大学へ進学された 学生さんたちの喜びが
まさにここに 展開されています

▶「キャリプロ」チラシ



▶「活動レポート 2022」



▶「キャリプロ」説明会動画



▶説明会スライド

大東文化大学
キャリア形成プロジェクト

DAITOキャリアプロジェクト

キャリアプロ

働くや就活へつなげる、と真ん中の経緯。

「皆さんに質問です」

就活で必ず聞かれることは
何だと思いませんか

就活で必ず聞かれること



学生時代に力を入れたことは
何ですか？

この質問に

- ・自信をもって答えられますか？
- ・答えられると言える
「やりたいこと」は明確ですか？



企業

これまでで一番頑張ったと覚えることは何ですか？
これまでで一番苦労したことは何ですか？
大変だと感じたとき、どうそれを乗り越えますか？

企業がこの質問から知りたいことは、

一緒に働く仲間として

こういった働き方ができる、
働き方をする人物なのか

働く価値観を積み上げる

大切な大学生活の時間を

どう過ごすのか

大東文化大学では、

大学生活の充実を支援する
プロジェクトをスタートします！

大東文化大学
キャリア形成プロジェクト
その名はズバリ、
「キャリアプロ」



チームでの活動を通じて、
学部、学年を超えた仲間と出会い、
一緒に課題に取り組み、
「やりきった」という経験を
してみませんか？



就活でアピールできない…
自信を持って「これをがんばった！」と言えることが
ない…

こんな未来はイヤですね

キャリアプロには、
働くや就活へつなげる
ど真ん中の経験を得られる
工夫が満載です

「キャリアプロ」

プログラム

4つのポイント

「キャリアプロ」ポイント1

大学生活や将来に活かせる

スキルの獲得

「キャリアプロ」ポイント2

仲間や社会人との

新しい出会い

「キャリアプロ」ポイント3

“就活”“働く”の

ヒントがつかめる

「キャリアプロ」ポイント4

学生主体の実践的
プロジェクトへの挑戦

プログラムの進行は、その道のプロ

プログラム進行

キャリアプロフェッショナル 1名 大学キャリア教育実務や企業人事部門・自治体等で行う教育実務の経験者、心理学、社会学メソッド「行動学」にも造詣が深い。専攻大学、勤務先でもキャリア支援実務を担っている。学生・教員の悩みが、人となり結果に表れるのが得意。



ただし、
授業の主役は
講師ではなく
皆さんです！

「キャリアプロ」授業の特徴



プログラムは、
プロジェクトを実行していくために必要な
inputと**output**を繰り返しながら、
課題解決に必要な知識とスキルを
身につけていきます。

前期inputの例

働くを社会人から学ぶ
自分らしいリーダーシップとは
価値を生み出すための情報収集・思考法
価値を届けるプレゼンテーション
質を高めるチーム学習

後期inputの例

視野を広げる社会人との対話
プロジェクトを円滑に進めるための
ロジカルシンキング
価値を広げるマーケティング
④ プロトタイプ的设计方法

前期outputの例(実践編)

BtoC企業と連携し、顧客の課題を解決する
サービス・商品を企画する。



後期outputの例(実践編)

似た興味を持つ学生でチームを組み、
事業家の支援を得つつ、価値をつくる。

似た興味を持つ
学生で
課題を分析



課題解決の案を
考え実行する

充実したサポート体制で

安心して

初めてのことに取り組みます

学びのサポート体制

多様な立場の人からのサポートがあり、誰でも
安心して挑戦することができます。



外部講師



学生メンター



大学職員



教授

特に、

キャリアプロを経験した

先輩がメンターとなって

皆さんの相談にのります

「キャリアプロ」は

費用はかかりません

毎週1コマ、

自分の時間を使うだけです。

「キャリアプロ」という

自分への投資で

充実した大学生活と

仲間を手に入れませんか？